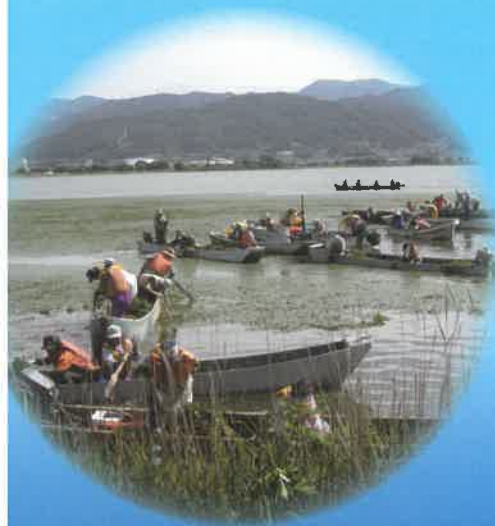


かつての諏訪湖は水質が悪化し、アオコに覆われ、多くのごみが漂う湖でしたが、多くの人々の努力が実り、近年は、美しい姿を取り戻しつつあります。しかし、ヒシの大量繁茂という新たな課題も生じています。ヒシとはどんな植物なのか、何が問題なのか、そして諏訪湖のために私たちは何ができるのかを一緒に考えてみましょう。



諏訪湖に生きる生物たちと 美しい景観を守りましょう

ヒシは
どんな植物
なのでしょう



●生態

春になると、沈んだ種子から発芽します。湖底に根をおろし、茎は水中から水面に向かって長く伸びます。湖底の栄養分を吸収するので水質改善に効果がある、魚類の隠れ家になるなどの利点がある反面、大きな問題となっている貧酸素の要因の一つと言われています。

ヒシに関する Q&A

Q. ヒシが大量繁茂すると何が問題なの？

A1. 太陽光がヒシの葉に遮られるので、湖底に届きにくくなります。

湖底で繁殖する沈水植物は光合成ができないので、水中に出される酸素量が少なくなってしまうです。

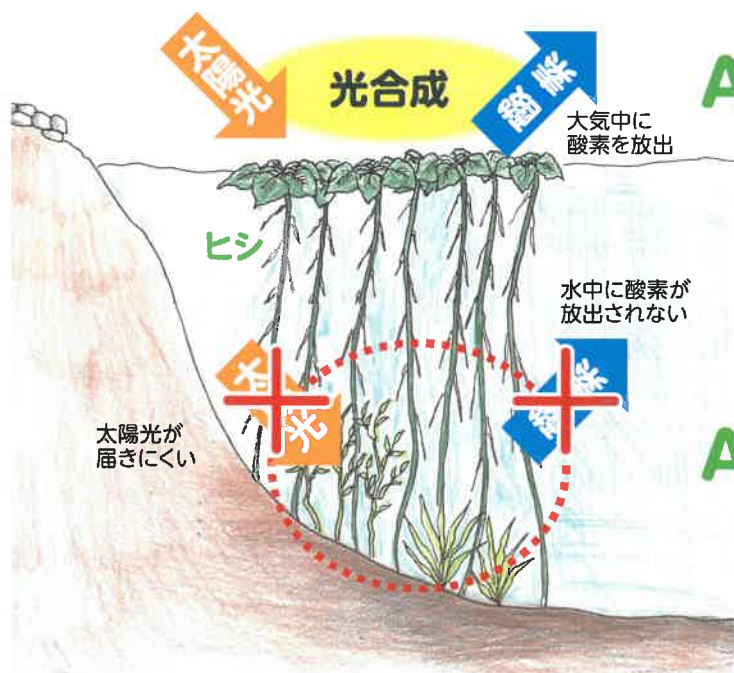
A2. ごみや魚の死骸などが絡みつきます。

長期間ヒシの間に漂っているので景観を阻害し、岸に漂着する前に、紫外線などでプラスチックが分解され、マイクロプラスチック化する可能性もあります。



A3. 枯れた後にも問題があります。

枯れたヒシは見た目が悪く、腐敗臭も発します。また、湖底に沈んだヒシが多量に溜まって腐ると、諏訪湖の酸素が消費されてしまいます。



エビモ・ササバモなど(沈水植物)

Q. 私たちに何かできるの？

A4. 団体等で除去作業を行っています。

ヒシの密度を薄くするために、各団体等が除去作業を行っています。方法としては、植物体を手や、道具を使って引き上げる『手刈り』や、長野県が行っている、水草刈り取り船を使った、『機械刈り』があります。



Q. 除去したヒシは捨てるのでしょうか？

A5. 一部リサイクルされています。

除去した『ヒシ』の一部は堆肥として有効に利用されています。

環境市民会議おかや・諏訪湖漁業協同組合・岡谷市の協働により、毎年7月に、参加者または参加団体を募り、ヒシ除去を行っています。詳しくは、市ホームページ、『広報おかや』をご覧ください。下記までお問合せ下さい。

環境市民会議おかや事務局

〒394-8510 岡谷市幸町8番1号 岡谷市環境課内
TEL 0266-23-4811 FAX 0266-22-7281
seisou@city.okaya.lg.jp